

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)	評価(総合)	自己評価は	
学校運営方針		<p>・生徒が学校生活を楽しいと感じながら通学し、教育活動の中で見つけた夢や、自らが設定した目標を実現できるよう、常に生徒に寄り添いながら支援する。その際、心理的安全性の高い教育環境作りに注力し、生徒の多様な個性の尊重及び自己指導能力の育成に重点を置くとともに、家庭や地域及び関係機関等との更なる連携を図ることとする。</p> <p>・授業改善を大きな課題として捉え、ICT活用やAL型授業を推進することによって、生徒の学ぶ意欲を育てるとともに、生き生きとした授業空間を創出する。</p> <p>・コミュニティ・スクールとして、地域貢献を柱とした教育活動を展開する。特にコミュニティ・スクールディレクターや地域学校協働活動推進員と連携しながらボランティア活動等を積極的に行う。</p>					<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標					
<p>1 成果</p> <p>(1)様々な教育活動と精力的な広報活動に対する職員の深い理解と協力により、長年の課題であった活員数の状況は本年度は解消できた。</p> <p>(2)昨年度を終了を迎えた「新たな学びプロジェクト」により、教員のICT活用技術とその使用頻度、教科横断型授業の取組は大きく向上した。</p> <p>(3)学校行事については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、見直しと改善を行いながら実施した。飛梅祭、体育祭、修学旅行等については綿密な計画のもとに実施でき、成功を収めた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1)授業改善を大きな課題として捉え、「新たな学びプロジェクト」を通じて得た、ICTの活用やAL型授業の推進を図るとともに、評価の見直しを行いながら、学力向上及び進路保障につなげる。</p> <p>(2)コミュニティ・スクールとして、地域貢献活動を組織的・計画的に推進する必要がある。</p> <p>(3)生徒自身の自己肯定感を高め、多様な他者を理解させるために、行事やホームルーム活動を有効活用する必要がある。</p> <p>(4)総合的な探究の時間(探究)を有効活用することにより、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>(5)広報活動を意識しながら、情報発信を続ける必要がある。</p>	<p>1 生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力を向上させる</p> <p>2 基本的な生活習慣を確立させ、自己指導能力の形成につなげる</p> <p>3 社会性を身に付けさせるため、ルールやマナーに対する理解を深めさせる</p> <p>4 多面的な評価の推進により、自己肯定感を高める</p> <p>5 学校行事を主体的に運営させることで、自己有用感を醸成する</p> <p>6 進路行事を中心に進路に対する意識向上を図り、進路決定をはじめとするキャリアパスの構築を促す</p> <p>7 資格取得を奨励し、合格に向けた支援体制を構築する</p> <p>8 自己肯定感を高め、多様な他者の理解に努める生徒を育成する</p> <p>9 コミュニティ・スクールとして、地域に根ざし地域から信頼される学校を目指す</p> <p>10 芸術科(美術・書道)教育の内容を充実させる</p> <p>11 積極的な広報活動を展開し、入試志願倍率を向上させる</p> <p>12 成年年齢引き下げに伴い、主権者教育を充実させる</p>	<p>・授業改善の方策として、ICT活用やAL型授業の推進による「楽習」の実現を目指し、評価の見直し等についても検討・研修を行う。</p> <p>・学年・分掌・教科が連携して、生徒自らが健康面に留意しながら登校し、自発的に学習に取り組むよう指導する。</p> <p>・生徒自身にルールやマナーを自分ごと化させるため、校則の見直しや各種講習会の運営に取り組ませる。</p> <p>・観点別評価を一層推進するとともに、キャリアパスポートの作成により自らの活動実績を振り返らせる。</p> <p>・職員による指導・助言の下、生徒実行委員会の主体的活動と更なる活性化を図る。</p> <p>・上級学校との連携により、各種ガイダンスや体験授業を通じて、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>・関連教科と連携し、英語検定や数学検定、漢字検定等各種検定試験に挑戦させる。</p> <p>・ホームルーム活動や行事をはじめとする各種特別活動において集団形成能力を高めさせる。</p> <p>・地域貢献活動やボランティア活動を推進し、非認知能力の育成と自己肯定感の向上を図る。</p> <p>・芸術科職員の高い専門性を生かし、教育内容の充実と生徒の進路実現を目指す。</p> <p>・学校体験入学の充実、広報紙やSNSによる積極的な情報発信を行う。</p> <p>・公民科の授業や特別活動を活用し、特に3年次における主権者教育の徹底を図る。</p>					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教育支援部 (教務課)	学習意欲の喚起と基礎学力の向上を図る。	一人一台端末の導入にともない、ALの実施・ICTの活用を積極的に進め、魅力的な授業を展開する。研修課と協力して効果的な活用方法を提示し、ICT機器の活用75%以上を目指す。					
	授業時間の確保と円滑な授業・考査の実施。 校務支援システムの円滑な運用。	基礎力診断テストを利用して「学びなおし」を計画的に実施し、生徒の実態に応じた指導を行う。 「できるまで指導」を行い、粘り強く指導する。毎時間、授業の始め、または最後に振り返りの時間を設ける。授業アンケートで実施成果を検証する。 年間授業予定をもとに、月別行事予定等の点検を定期的に行う。 考査でのミスがないよう、呼びかけを毎回行う。 年間計画等を作成し、業務内容を可視化する。観点別評価の導入を促進する。					
教育支援部 (企画・広報課)	職員一丸となった積極的な広報活動を通して、本校の教育活動の内容と魅力をPRし、入試倍率の向上を目指す。	中学校訪問等を活用して早期に行事の案内を行い、中高フェスタ等の行事への中学生の参加者増、および出前授業や一日体験入学等の申込数増を目指す。 教務課や進路支援部と連携し、特色化入試で入学した生徒の成長・実績や学力保証・進路保証等についてPRする。 効果的な広報活動を展開するために、学校HPやSNSを週に1回は更新し、リアルタイムに情報を発信する。					
	校内ICT環境を、教師も生徒も活用できるように整備し、授業や校務のICT化推進や学校行事等の充実に貢献する。	情報関係の管理システムを効果的に運用させると共に、生徒指導課や学年と連携し、情報モラルの向上に努める。 全教職員が活用しやすい環境整備を行うと共に、教員へのサポート体制を充実させ、学校のICT教育力を向上させる。 学校行事や広報活動等における生徒のICT活用場の提案し、生徒のICT活用力を高めるとともに、学校の活性化につなげる。					
生徒育成部 (生徒指導部)	全職員が行う生活指導及び積極的な生徒指導体制により基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成を図る。	ルール遵守の動機付けを図り、自ら課題を解決しようとする態度を育成する。 教育相談期間を設定し、家庭、学年、分掌、教科、及びSC、SSWとの連携を図り、いじめの未然防止に努める。 毎日の登下校の見守り指導を徹底し、事故の未然防止に努める。					
	成果主義ではない過程を重視した集団教育活動の充実を図り、生徒会活動や専門委員会活動、及び学校行事の活性化を図る。	生徒が中心となり諸行事を企画し、生徒主導で円滑に運営できる指導や助言を行う。 学校活性化及び特色化選抜入試志望者の増加を目指した、部活動の活性化を行う。 部活動の環境を整え、高い意識レベルでの活動を促す。また、部活動中の事故防止に努める。					
生徒育成部 (保健課)	生徒の自己管理能力の向上を図ることで、心身の健康の保持・増進を図る。 また、整備委員会、保健委員会の活性化を図り、生徒の主体性を育む。	新型コロナウイルス感染症予防の呼びかけを継続する。また、定期健康診断を確実に実施し、事後措置を適切に行う。 清掃指導を組織的に行い、美化活動と啓発を推進する。また、学期に1週間ほどの美化コンクールを実施し、クラス表彰を行うことで生徒の美化意識を高める。 保健だよりの作成と掲示物の有効活用を図る。また、高等学校保健会行事へ積極的に参加し、保健委員会活動を活性化させる。					
	全ての生徒が安心して学校生活を送れるように、支援体制を整える。 また、火災、地震などの災害に対する防災意識を高め、災害発生時に適切な対応と行動がとれるようにする。	生徒理解をより深めるため職員研修を適宜行う。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、専門医、保護者と連携し、生徒理解に繋げる。 緊急時の避難マニュアルや連絡網を作成し、防災組織を整備し、災害発生時に備える。なお、地震と火災及び豪雨災害を想定した訓練を11月に実施する。 学校薬剤師による教室環境調査や食堂衛生検査を実施する。					

進路支援部 (キャリア教育課)	自ら意欲的に進路決定をする姿勢を身に付けさせ、それに向かってチャレンジし努力する生徒を育成する。	各種ガイダンスを充実させたり、大学見学会や外部講師による模擬授業等を実施し、勤労観・職業観の育成をし、必要な進路選択ができるようにする。 本校生徒の進路実現に合った模試・検定を精選し、学年・関係教科と連携し、生徒への支援体制を構築する。						
	大学進学希望者や公務員(自衛隊含む)、就職希望者の進路を保障するために、学力補充講座と進路支援の内容を充実させる。	1・2学年について、「学びの基礎診断」認定ツールを活用し、効果的な運用システムを構築する。そして、生徒に頑張れば解けるという達成感を与え、学ぶ姿勢や基礎学力の定着を図る。 生徒の学習到達度と多様な希望進路に対応した講座を実施できるように、環境整備を行う。 学校推薦型選抜入試に対応するため、小論文(志望理由書等含む)・面接指導の指導体制を構築する。 公務員希望者を対象に外部講師による講座や模試、自衛隊希望者を対象に説明会や面接指導対策、就職希望者を対象に履歴書と面接指導対策などの多様な進路に対応した指導体制を構築する。						
	本校の生徒実態をふまえ、職員研修会のテーマを精選し計画的に実施する。	本校の実態に即した内容で研修プログラムを構築し実践する。 県教育センター専門研修等の校外研修受講を推進し、初任研等の基本研修の計画・実施の充実を図る。 研修を通して教職員一人ひとりの人権意識を高め、人権を尊重できる学校環境づくりに努める。						
	教務課と連携し、個々の授業の改善につながる取り組みに努める。	授業研究の機会を確保するために研究授業を計画・実施する。 教務課と連携し、観点別評価およびアクティブラーニング・ICT活用についての研修を実施する。 授業アンケートを実施し、生徒の実態把握と教職員の授業改善の材料とする。						
総務部 (研修課)	本校教育活動の円滑化を図る行事の企画等を行う。	式典および各行事の要項作成を早め、行事の円滑な遂行を図る。 在校生対象の奨学金制度の案内、申し込み等を行う。 「学校要覧」や「在校生のしおり」の準備を計画的に行う。						
	行事予定の作成において、学年・分掌・教科等との連携を密に行う。	月別行事予定表の効率的な作成を行う。 行事予定を早めに示し、PTA・教育振興会等と綿密な連携を図る。 職員の福利厚生環境づくりや、互助会福祉事業を行う。						
	生徒の実態に応じた授業を展開し、生徒が学習に向かう環境を整備する。	授業において学びなおし、振り返りを行い、学習意欲を喚起する。 生徒の実態に応じた授業を展開し、達成感と自己肯定感を持たせる。 授業に臨む態度を指導し、落ち着いた学習環境を保持する。						
	高校生としての自覚を持たせ、社会性を育む。	あいさつ、服装・頭髪、時間厳守の指導を行うことで、基本的な生活習慣を確立させる。 毎日の授業や行事において、集団の一員であることを自覚させることで、社会性を育む。 生徒が安心して、安全に学校生活を送れる環境づくりを行う。						
学年統括部 (第1学年)	基礎学力の定着、進路実現につながる学力の向上に努める。	目的や目標を持ちながら学習に向えるように、進路ガイダンスを充実させる。 落ち着いた雰囲気の中で授業を行えるように学習環境の整備を行う。 各種検定試験前の学力補充講座で対策を行い、準2級10名の合格を目指す。						
	学年としての協調性、主体性を育む。	体験的な活動を通して、様々な学びや気づきを与えるような取り組みを実施していく。 当たり前に行うべきことを責任をもって当たり前に行えるよう指導をしていく。 2学年としての役割を果たしながら、学年として協調性やリーダーの育成に努める。						
	進路実現のため、手厚い指導を行う。	英語検定試験前の学力補充講座で対策を行い、2級10名、準2級10名の合格を目指す。 小論文・作文・志望理由書等の書き方指導や面接の指導を学年全職員で行う。 進路の就職担当者や担任が緊密に連携して希望者全員の就職を目指す。						
	自己肯定感や協調性、積極性を育む。	叱るのではなく諭す指導を徹底する。 生徒が自分達の方で学校行事を成功させたと思われるようサポートし、達成感を味わわせる。 様々な場面で最高学年であることを強調し、生徒たちにその自覚を促す。						
学年統括部 (第2学年)	芸術科広報活動の工夫、改善、強化。	実技講習会受講者と受検者の相関を分析し、広報活動、実技講習会を充実させ、受検者数の安定を目指す。(数値目標 1.2倍) 芸術科広報行事の充実のため中学生対象行事を積極的に行う。実技講習会を年4回それに伴う中学訪問を実施し、実技優秀者を本校受検へ促す。 芸術科広報媒体の充実のため、ホームページやSNSを活用する。						
	芸術科教育の充実と進化。	授業改善による芸術科教育の成果の向上と全国規模の公募展や大会への積極的参加。 生徒の主体的な活動を中心とした芸術科行事の運営を行い、集団の中で個性を発揮できる環境をつくる。 他者と協働して臨む雰囲気づくりを行い、地域と連携した芸術活動や芸術科諸行事を成功させる。						

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見

--